



リビング、ウィル(生前意志) の勧め

“何時か誰にでも必ず命が終わるときが来ます”。ときいて、あなたは思うのでしょうか？

日本人は世界一の長寿の国になり、現在男性の平均寿命は79歳、女性は86歳です。自分の命の終わる日が、ずっと先のことと思う人、もうすぐかな？と思う人、それぞれだと思いますが、これはあくまで平均値、実際にはあなたの最期が突然やってくることも十分に考えられるわけです。元気な時から、自分の最期について良く考え、終わる時はどの様に終わりたいかを、家族や周囲の人に伝えておきましょう、そして苦痛なく、自分らしい最期を迎える準備をしておきましょう、と言うのが、このリビング、ウィル(生前意志)のお話です。

医療の立場からお話すると、病気や怪我が治療によって軽快する場合は問題がありません。しかし老化による変化や不治の病になった場合には、どの様に医療が発展しようとも、治すことは出来ません。そのような場合での医療は、苦痛を軽くしたり、生活がしやすいような支援をすることが目的となります。リハビリや緩和ケアの考え方が普及し、生活の場で十分なケアや支援が受けられる社会の仕組みを作って実践することが、私たちの役目と思っています。しかし医療には別の側面があります。老化が進み、又は不治の病が進行し、もう何をしても元気になれない状況にきたとき、つまり最期が来た、寿命が来たという時です。

公立富岡総合病院 副院長
佐藤 尚文

こういう時が誰にも何時か必ず来ることを冒頭で述べました。

このような状態になったときに、医療行為としては、数々の延命措置があります。呼吸器装着（気管から管を入れて器械で呼吸する）や、胃瘻栄養（胃に穴をあけて栄養を注入する）がその代表です。しかし不治に状況になった時は、単なる延命、心臓が動いているだけの延命は望まない、苦痛を取り除き安らかな最期を迎えたいと思っている人が大多数なのです。

しかし残念ながら、今の医療は本人の意思が確認できない場合は、容赦なくこの延命措置が施される可能性が高いのです。ここで威力を発揮するのが、このリビングウィルです。

自分の意思を文章に残し、家族や周囲の人に伝えておきましょう。見本の文章を病院のサービスセンターに用意しました。このような考えをお持ちの方は、お気軽に相談ください。

御希望があれば質問にお答えする時間を設定したいと思います。

すべての人が、元気で長生きをし、そして最期は安らかに穏やかに、その人らしく旅立てるように、“旅立ちの宣言書”というリビングウィルです。